

認知症サポーター養成講座

オレンジガーデニングプロジェクトの一環で「認知症サポーター養成講座」を実施しました。野洲中学校からは、オレンジガーデニングプロジェクトにも取り組んでいる人権研究会の生徒に加え、学校運営協議会の委員も参加しました。野洲市の高齢福祉課の職員とキャラバンメイトの方々と一緒に、認知症についての理解を深めることができました。



ことができました。

まずは認知症と脳の働きについて学びました。「頭の上にパンフレットを乗せる」といった行動一つとってみても、まねるために見る、触る、バランスをとる、など、たくさんの脳の機能を使います。その機能がうまく働くなって生活に支障が出ている状態を「認知症」と言うのだそうです。

次に認知症の人への接し方を考えました。人権研究会の生徒からは「認知症が身近な病気だということがわかった。」「接し方で進行を止めることができると知ることができた。」「認知症の人が不安な気持ちもよく分かったので、やさしく接したいと思います。」といった感想が聞かれました。学校運営協議会のメンバーとともにオレンジリングをいただきました。「優しい野洲にしていきましょう。」との言葉をいただき、講座を終えました。

今後、参加した生徒のみなさんは学んだことを生かしてサポーターとして活動してくれると思います。



人権研究会のみなさんと学校運営協議会のメンバーで市の地域包括支援センターの「認知症サポーター養成講座」を受講しました。人権研究会では、講座に先立ち、認知症理解の啓発活動としてオレンジガーデニングプロジェクトにも取り組んできました。野洲中学校では4年前から取り組んでおり、中学校の玄関にはマリーゴールドのオレンジがきれいに咲いています。

野洲中学校地域学校協働活動